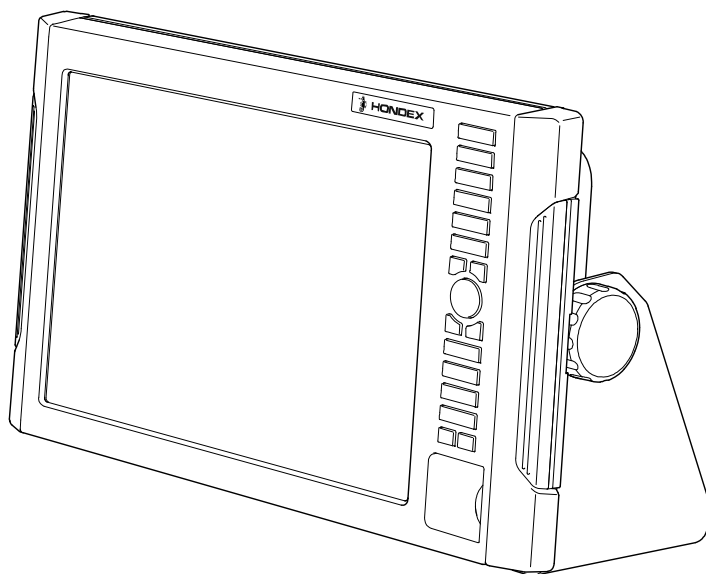


取扱説明書

(含 安全取扱要領)

HE-1270

12.1型クイックスキャン



警告

あなたの安全を守るため、操作の前にこの取扱説明書をよく読み、十分内容を理解してください。



警告

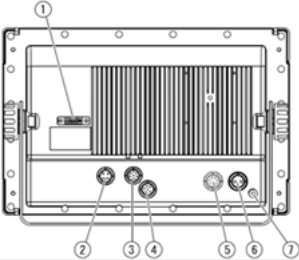
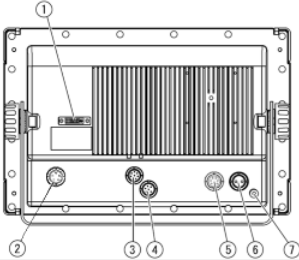
この取扱説明書は常に機械操作に便利な所定の場所に保管し、必要なときすぐに読めるようにしてください。



本物電子株式会社®

正誤表

HE-1270 の取扱説明書第 1 版に関して、下記の通り誤記がありましたので訂正いたします。

正誤箇所	誤	正
P.7 背面図		
P.7 ①	DVI 映像出力 (HONDEX 専用モニターは非対応)	DVI 映像出力
P.7 ②	未使用 (4P)	モニター電源出力 (5P)
P.7 ④	未使用 (6P)	外部入出力 (6P)

2025 年 4 月

はじめに

このたびは当社製品をお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。

- あなたの安全を守るため、操作の前にこの取扱説明書をよくお読みになり、十分内容を理解してください。
- この取扱説明書をお読みになった後は、紛失・損傷の起きないような場所に保管し、必要なときすぐに読めるようにしておいてください。
- あなたがこの製品を転売または譲渡する場合は、この取扱説明書を新しい所有者にお渡しください。
- この取扱説明書に書かれていない使用法、あるいは間違った使用法を行った結果招いた人身事故および物的損傷に対しては、当社は一切の製造物責任法(PL法)上の責任を負いません。
- お買い上げの機器を廃棄するときは、地方自治体の条例、または、規則に従って処理してください。詳しくは、各地方自治体に問い合わせてください。

【安全上のご注意】のシンボルマークの定義について……



危険

: この表示は「記載事項を守らないと、死もしくは重傷となる事故を招く」内容です。



警告

: この表示は「記載事項を守らないと、死もしくは重傷となる事故を招く恐れがある」内容です。



注意

: この表示は「記載事項を守らないと、軽傷を招いたり、他の物的財産に損害を及ぼす恐れがある」内容です。



: してはいけない「**禁止**」を示しています。



: 必ず実行していただく「**強制**」を示しています。

- ・本書の内容の一部、または全部を無断で転載することはおやめください。
- ・仕様変更等により、本書の内容と一部異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- ・本書の内容についてご不明な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がございましたら、お手数ですが当社までご連絡ください。

目次

安全上のご注意(必ずお読みください)	1
1. 本体の取扱いについて	1
2. コード類の取扱いについて	2
3. 振動子および水温センサーの取扱いについて	3
4. TFT 液晶パネルについて	3
5. ご使用上のお願い	4
本機の特徴	4
各部の名称	6
1. 前面パネル	6
2. 背面	7
画面の見方	8
メニューの使い方	9

基本操作

電源を入れる／切るには	11
前面パネルでの操作	12
1. 深度(表示範囲)を設定するには	12
2. 感度を調節するには	13
3. 自動設定するには	14
4. 周波数設定するには	14
5. マーカー操作するには	14
6. 輝度調整するには	14
メニューによる設定	15
1. 周波数の選択	15
2. 魚探送り	15
3. 自動設定	15
4. 併画内容	15
5. ボトムリング	16
6. 真下ビーム表示	16
7. ガイドライン	16
8. スケールライン	16
9. 昼夜切替	17
10. 背景	17
11. 色配列	17
12. 色消し	17
13. 強レベル	18
14. クラッター	18
15. ソナー画質	18
16. 魚探自動最大深度	19
19. クリーンエコー	19
18. STC	19
19. 発振出力	20
20. 振動子取付方向	20

21. 画像保存の使い方	21
22. USB メモリを取り出す	22
23. 本体キーの明るさ	23
24. 電圧補正	23
25. 水温補正	23
26. 初期化	23
メニューの一覧と設定の意味	24

参考資料

本体寸法図	27
本体接続図	28
本体の取付け方法	29
インダッシュで取付ける方法	30
振動子の取付け方法	32
トランサム(船尾)に取付け	34
水温センサーの取付け方法	35
標準構成	36
オプション部品	37
故障とお思いになる前に	38
仕様一覧表	40
アフターサービスについて	41

安全上のご注意(必ずお読みください)

「安全上のご注意」では、本機をご使用になる人や他の人々への危害、財産への損害を未然に防止するために重要な注意事項を説明しています。

1. 本体の取扱いについて

危険



- 本体内部には高電圧が使用されている。
保守作業者以外は分解・改造をしないこと。
これを守らないと感電死を負う事故となります。
※修理は当社マリンカスタマーサービスまたは販売店に依頼してください。

警告



- 簡易的な取り付けはしない。
ケガなど事故の原因となります。



- 本機に表示される情報は、直接航海に使用しない。
海難事故の原因となります。
※航海上の判断には、必ず正規の海図を使用してください。



- 表示の水深だけを頼って操船しない。
魚群探知機に表示される水深表示はさまざまな条件により誤った数値を表示することがありますので、直接航海に使用しないでください。



- 操船中は本体の操作をしない。
海難事故の原因となります。
※操作をする場合は、周囲の安全を充分確認した上で行ってください。



- 引火性ガスなどの発生場所では電源を入れない。
発火の原因となります。



- 指定の電源以外は使用しない。
発熱や発火の原因となります。



- 分解・改造は絶対にしない。
火災や感電、ケガの原因となります。



- 濡れた手で操作しない。
感電や故障の原因となります。



- 故障や発煙、発火のときは電源コードを外す。
そのまま使用すると火災や感電の原因となります。
必ず、お買上先または当社マリンカスタマーサービスへ連絡してください。

注意

-  ●雨や水しぶきが直接かかる場所へ設置しない。
火災・感電の原因となります。
-  ●高温になる場所へ設置しない。
内部温度の上昇による発火やケガ、感電の原因となります。
-  ●アース(接地)は確実に取ること。
接地が悪いと他の機器から干渉を受けたり、他の機器に干渉を与えたりします。
-  ●直射日光を避ける。
液晶が見えづらくなったり、発熱の原因となります。

2. コード類の取扱いについて

警告

-  ●電源コードおよびヒューズは指定のものを使うこと。
発熱・発火の原因となります。
-  ●電源コードのプラグを抜いたまま放置しない。
プラグが濡れるとショートして、発熱や発火の原因となります。
-  ●コード類は、操船の妨げにならないように配線する。
足や操船装置にからむと、事故の原因となります。
※コード類の上に重い物をのせたり、無理に曲げたりしないでください。
-  ●コード類は分解・改造をしない。
発熱・発火・感電の原因となります。
-  ●傷んだコード類は使用しない。
火災や感電の原因となります。

注意

-  ●プラグはコードを引っ張って抜かない。
コードが損傷して火災や感電の原因となります。
※抜くときはプラグ本体を持って行ってください。
-  ●本体取付け時等、ケーブルを挟まないように注意してください。
コード類が傷み、発熱や発火、感電、故障の原因となります。

3. 振動子および水温センサーの取扱いについて

危険



- 海上での作業は非常に不安定で危険。

振動子および水温センサーの取付け・保守は、陸上で船体を固定、または岸壁やマリーナで停泊中に行ってください。

警告



- 船底貫通（スルーハル）取付けは、防水処理を充分に行う。

不十分だと、浸水して海難事故の原因となります。

※アルミ船への船底貫通取付けは絶対にお止めください。（電食の恐れがあります）



- 電動工具による作業は、濡れた手で行わない。

感電の原因となります。



- 電源を入れたまま振動子コードのプラグを抜き差ししない。

感電の原因となります。



- 燃料や油、有機溶剤が振動子や水温センサーに直接かからないように注意してください。火災や故障の原因となります。

4. TFT 液晶パネルについて

- TFT 液晶パネルは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99%以上が有効画素ですが、0.01%以下の画素欠けや常時点灯する画素が存在します。
これは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

5. 使用上のお願い

エンジン始動時は、電源を切る！

エンジン始動時はバッテリー電圧が変動し、本機に悪影響を与える場合があります。
エンジンの始動は本体の電源を切った状態で行ってください。

電源 11V～30V！

本体の電源電圧は DC 11V～30V の範囲でご使用ください。

有機溶剤の使用禁止！

本体の大部分はプラスチックでできていますので、シンナーやアルコール等の有機溶剤で拭かないでください。汚れのひどいときは、柔らかい布に中性洗剤を含ませ、よく絞ってから拭いてください。
潤滑剤や防錆剤を塗布しないでください。ケースやパッキンを傷め、故障の原因となります。

干渉低減について！

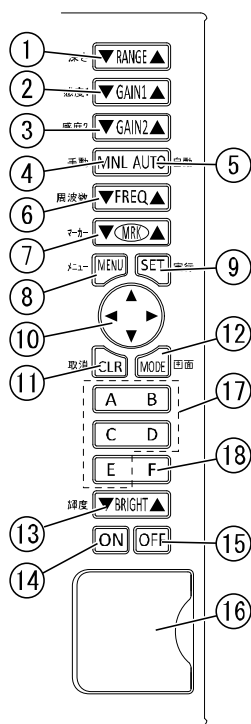
干渉低減について他船から申し入れがあった場合は、送波音圧レベル(発振出力)の低減の措置を講じてください。

本機の特長

- ★ 全方位を同時に探知するソナーです。
- ★ オート機能を採用し、初心者の方でも安心して操作できます。
- ★ デジタル処理により、高感度でノイズの少ないクリアな映像表現を実現しました。
- ★ ボンディング液晶を採用しています。
- ★ 広帯域振動子を採用しており、他船の魚群探知機との干渉やノイズの軽減に有効です。

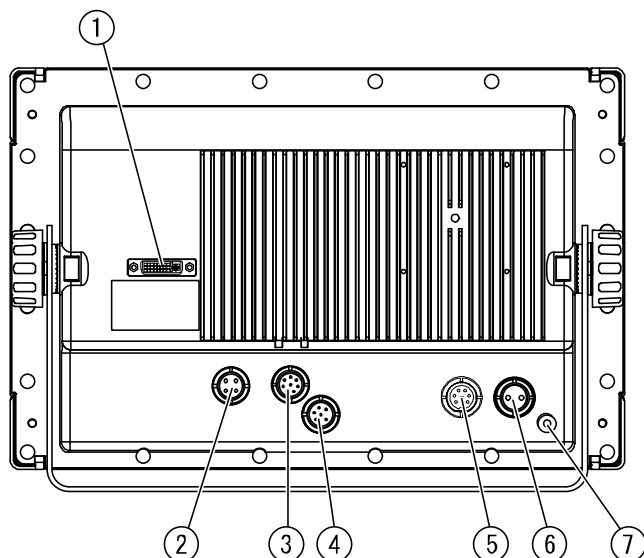
各部の名称

1. 前面パネル



- ① 深度(→13 ページ)
深度表示範囲を設定します。
- ② 感度 1 (→14 ページ)
魚探手動時はソナーの感度を設定します。
魚探自動時は魚探とソナーの感度を設定します。
- ③ 感度 2 (→14 ページ)
魚探手動時は魚探の感度を設定します。
- ④ 手動(→15 ページ)
魚探を手動操作モードに設定します。
- ⑤ 自動(→15 ページ)
魚探を自動操作モードに設定します。
- ⑥ 周波数(→15 ページ)
探知周波数を設定します。
- ⑦ マーカー(→15 ページ)
マーカーを調整します。
- ⑧ メニュー(→9 ページ)
メニューを表示します。
- ⑨ 実行(→9 ページ)
選択した項目を決定する時に使用します。
- ⑩ 方向 (上下左右) (→9 ページ)
メニューが開いている場合はメニューの項目選択、設定変更の移動を行います。
- ⑪ 取消(→9 ページ)
メニューのキャンセルに使用します。
- ⑫ 画面
本機では使用しません。
- ⑬ 輝度(→15 ページ)
画面の明るさを調整します。
- ⑭ ON(→11 ページ)
電源を入れる
- ⑮ OFF(→11 ページ)
電源を切る
- ⑯ カードスロット
USB メモリにデータを保存するときに使用します。(USB メモリ以外の USB 機器には対応していません。)
※SDカードにはデータを保存することはできません。
- ⑰ A～E
本機では使用しません。
- ⑱ F
画面保存(→23 ページ)

2.背面



① DVI 映像出力 (HONDEX 専用モニターは非対応)

② 未使用 (4P)

③ 水温センサー (TEMP、8P)
(水温センサーはオプション)

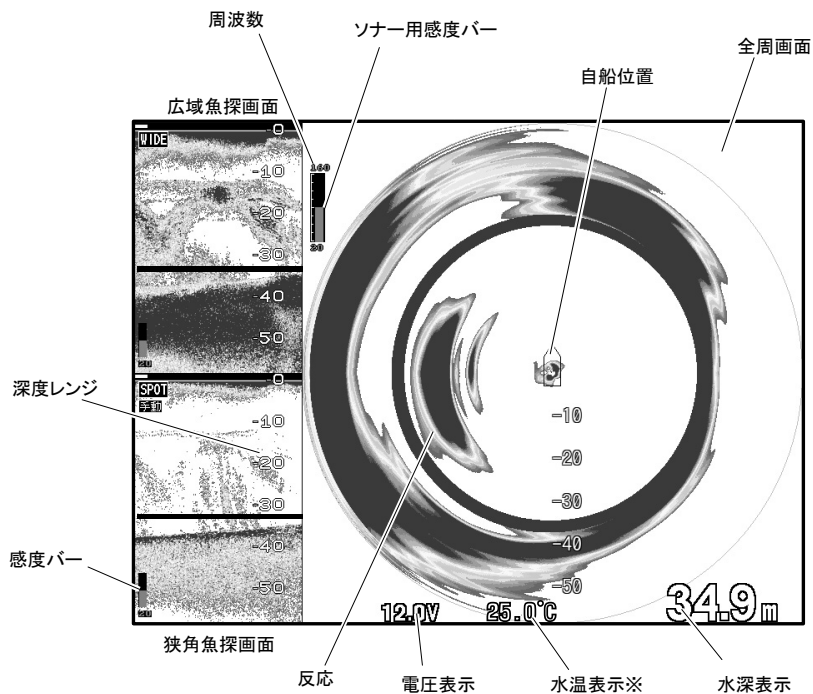
④ 未使用 (6P)

⑤ 振動子 (9P)

⑥ DC 電源 (2P)

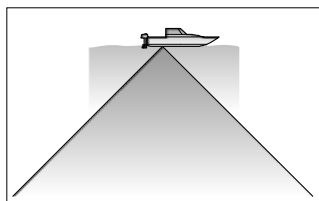
⑦ アース端子

画面の見方

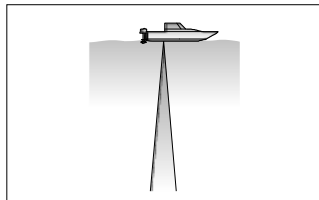


※水温は水温センサー(オプション)接続時に表示

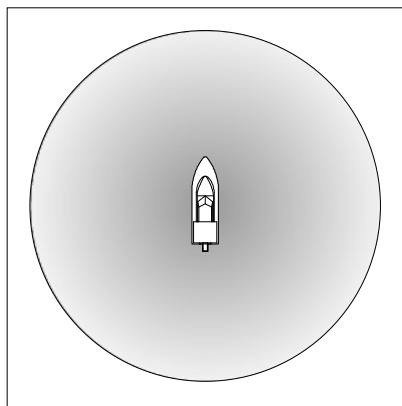
広域魚探



狭角魚探



自船の全周

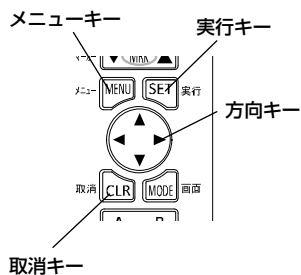


※メニューの操作は『メニューの使い方』(→9 ページ)を参照してください。

メニューの使い方

メニューの使い方

画面上のメニュー項目を、[メニュー]キー／[方向]キー／[実行]キー／[取消]キーを使って選択し、本機の設定情報を変更することができます。



- 1** [メニュー]キーを押します。
- 2** [方向]キーの▲ ▼(上・下)で、希望の項目を選択します。
- 3** [方向]キーの▶(右)で次の画面を表示させ、希望の項目を選択します。
前の画面に戻るときは[メニュー]キーを押します。
設定項目が表示されるまで、手順2と手順3を必要なだけ繰り返し行います。
- 4** 「項目選択」を行い、設定を変更します。
- 5** メニュー終了するときは、[取消]キーを押します。

基本操作

電源を入れる／切るには	11
前面パネルでの操作	12
1. 深度(表示範囲)を設定するには	12
2. 感度を調節するには	13
3. 自動設定するには	14
4. 周波数設定するには	14
5. マーカー操作するには	14
6. 輝度調整するには	14
メニューによる設定	15
1. 周波数の選択	15
2. 魚探送り	15
3. 自動設定	15
4. 併画内容	15
5. ボトムリング	16
6. 真下ビーム表示	16
7. ガイドライン	16
8. スケールライン	16
9. 昼夜切替	17
10. 背景	17
11. 色配列	17
12. 色消し	17
13. 強レベル	18
14. クラッター	18
15. ソナー画質	18
16. 魚探自動最大深度	19
19. クリーンエコー	19
18. STC	19
19. 発振出力	20
20. 振動子取付方向	20
21. 画像保存の使い方	21
22. USB メモリを取り出す	22
23. 本体キーの明るさ	23
24. 電圧補正	23
25. 水温補正	23
26. 初期化	23
メニューの一覧と設定の意味	24

電源を入れる／切るには

電源の ON／OFF



[ON]キー

[OFF]キー

1 [ON]キーを 2 秒以上押し続けると、起動音が鳴って電源が入ります。

その後、魚探画面が表示されたら起動完了です。

2 [OFF]キーを 2 秒以上押し続けると電源が切れます。

注意 2) エンジン始動時はバッテリー電圧が変動し、本体に悪影響を与える場合があります。
エンジンの始動は、本体の電源を切った状態で行ってください。

MEMO

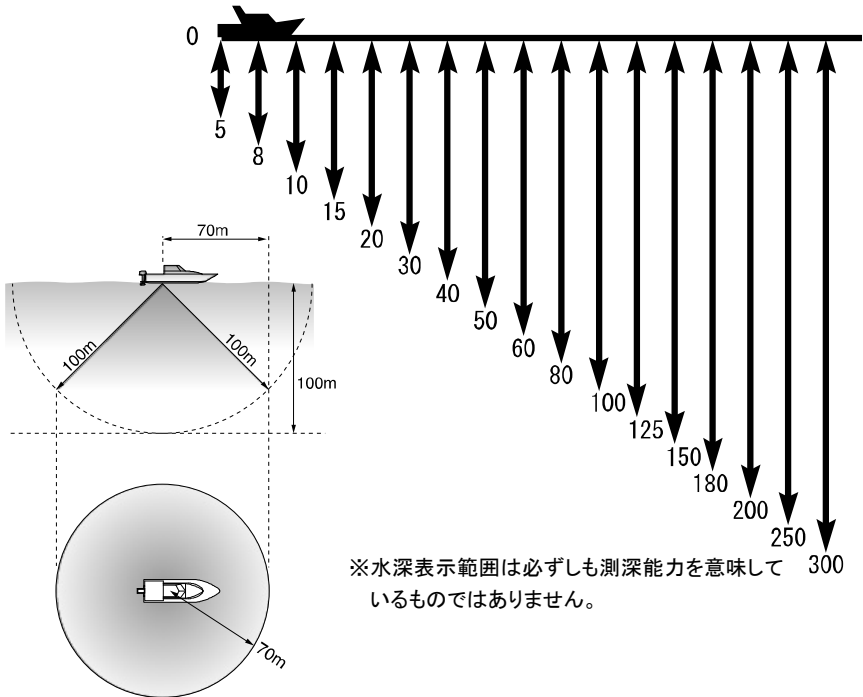
前面パネルでの操作

1. 深度(表示範囲)を設定するには

深度(表示範囲)

【深度(表示範囲)について】

海面からどのくらいの深さまでを画面に表示するか、その深度(表示範囲)を設定します。



※水深表示範囲は必ずしも測深能力を意味しているものではありません。

- 1 【深度(表示範囲)を浅くするには】**
深度の▲キーを押すごとに、表示範囲が浅くなります。
- 2 【深度(表示範囲)を深くするには】**
深度の▼キーを押すごとに、表示範囲が深くなります。

※深度(表示範囲)が深い設定で、浅場を探知しようとする深度計が正常に動作しなくなる場合があります。

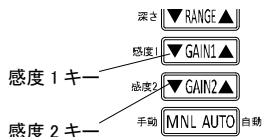
2.感度を調節するには

【全画面感度調整】

画面全体(過去の記録)を見ながら感度調整ができるため、鮮明な画像を簡単にマニュアル(手動)でセッティングできます。

2-1 自動設定が手動の時

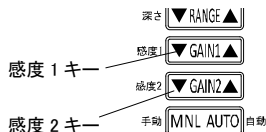
- 1 周波数 [160kHz]
 - 2 魚探送り [ON]
 - 3 自動設定 [手動、自動]
 - 4 表示設定
 - 5 色設定
 - 6 探知設定
 - 7 その他
- 感度と深度を
自動で調整します



- 1** メニューから「3. 自動設定」を選択します。
- 2** “手動”または“自動”の“手動”を選択します。
- 3** 感度1キーでソナーの感度を設定します。
感度2キーで魚探2画面の感度を設定します。
2画面の魚探の感度は連動し、個別設定はできません。

2-2 自動設定が自動の時

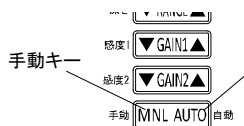
- 1 周波数 [160kHz]
 - 2 魚探送り [ON]
 - 3 自動設定 [手動、自動]
 - 4 表示設定
 - 5 色設定
 - 6 探知設定
 - 7 その他
- 感度と深度を
自動で調整します



- 1** メニューから「3. 自動設定」を選択します。
- 2** “手動”または“自動”の“自動”を選択します。
- 3** 感度1キーまたは、感度2キーで魚探2画面とソナーの感度を設定します。
魚探とソナーの感度は連動し、個別設定はできません。

3.自動設定するには

自動/手動設定



- 1 手動キーを押すと自動設定が“手動”になります。
- 2 自動キーを押すと自動設定が“自動”になります。

4.周波数設定するには

周波数設定

探知に利用する周波数を設定します。

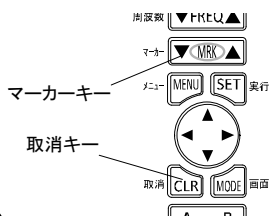


- 1 周波数キーの▼キーで周波数が下がります。
140kHz から下げると 200kHz になります。
- 2 周波数キーの▲キーで周波数が上がります。
200kHz から上げると 140kHz になります。

5.マーカー操作するには

マーカーの設定

深度マーカーを表示します。

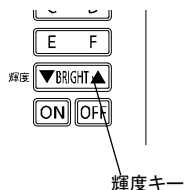


- 1 マーカーキーの▼キーでマーカー位置が深くなります。
- 2 マーカーキーの▲キーでマーカー位置が浅くなります。
マーカーは [取消] キーで消去できます。

6.輝度調整するには

輝度の調整

画面の明るさを調整します。

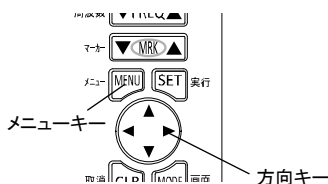


- 1 輝度▼キーで画面が暗くなります。
輝度▲キーで画面が明るくなります。

メニューによる設定

周波数の選択

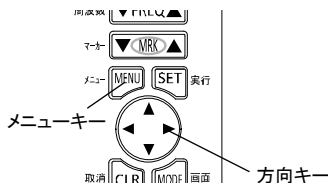
探知周波数を設定します。



- 1 メニューから「1. 周波数」を選択します。
- 2 「1. 周波数」の
[140kHz / 160kHz / 180kHz / 200 kHz] を選択します。

魚探送り

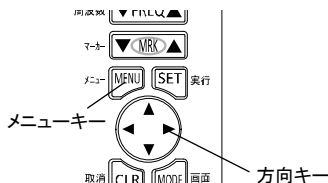
魚探送りで探知を“ON”“OFF”に設定します。



- 1 メニューから「2. 魚探送り」を選択します。
- 2 「2. 魚探送り」の[ON] [OFF]を選択します。

自動設定

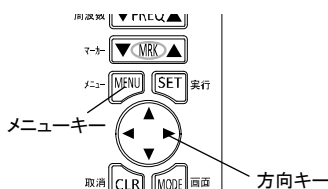
感度と深度を自動で調整します。



- 1 メニューから「3. 自動設定」を選択します。
- 2 「3. 自動設定」の[手動] [自動]を選択します。

併画内容

魚探画面の併画内容を選択します。

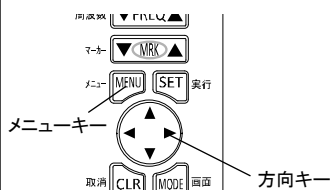


- 1 メニューから「4. 表示設定」→「1. 併画内容」を選択します。
- 2 「1. 併画内容」の[広域 | 真下] [左舷 | 右舷] を選択します。

※メニューの操作は『メニューの使い方』(→9 ページ)を参照してください。

ボトムリング

ソナー画面に真下の深度をリング表示します。

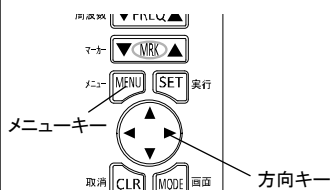


1 メニューから「4. 表示設定」→「2. ボトムリング」を選択します。

2 「2. ボトムリング」の [OFF] [ON] を選択します。

真下ビーム表示

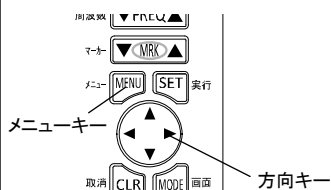
ソナー画面に真下のビームを重畳表示します。



1 メニューから「4. 表示設定」→「3. 真下ビーム表示」を選択します。

ガイドライン

ソナー画面にビームレイアウトを表示します。

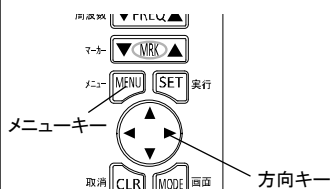


1 メニューから「4. 表示設定」→「4. ガイドライン」を選択します。

2 「4. ガイドライン」の [OFF] [ON] を選択します。

スケールライン

深度目盛が表示されている位置に切線が表示されます。



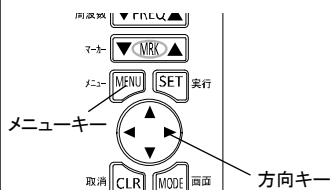
1 メニューから「4. 表示設定」→「5. スケールライン」を選択します。

2 「5. スケールライン」の [OFF] [ON] を選択します。

※メニューの操作は『メニューの使い方』(→9 ページ)を参照してください。

昼夜切替

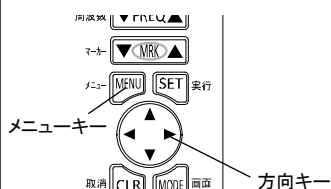
画面の色合いを設定します。



- 1** メニューから「5. 色設定」→「1. 昼夜切替」を選択します。
- 2** 「1. 昼夜切替」の [昼モード] [夜モード] を選択します。

背景

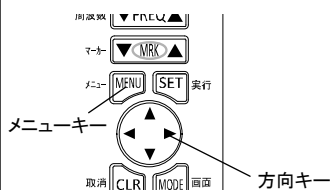
画面の背景色を設定します。



- 1** メニューから「5. 色設定」→「2. 背景」を選択します。
- 2** 「2. 背景」の [青] [白] [暗青] [黒] を選択します。

色配列

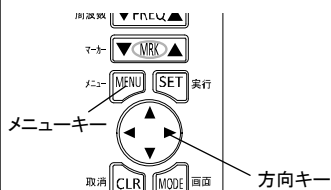
反応の表現色を設定します。



- 1** メニューから「5. 色設定」→「3. 色配列」を選択します。
- 2** 「3. 色配列」の [0 ~ 7] を選択します。

色消し

弱い反応を除去します。

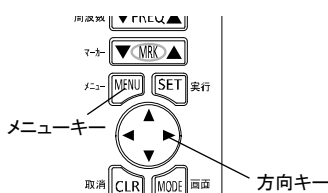


- 1** メニューから「5. 色設定」→「4. 色消し」を選択します。
- 2** 「4. 色消し」の [OFF / 1~12] を選択します。

※メニューの操作は『メニューの使い方』(→9 ページ)を参照してください。

強レベル

強い反応色が多く表示されるような設定にします。



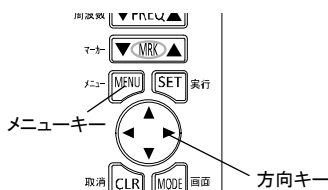
1 メニューから「5. 色設定」→「5. 強レベル」を選択します。

2 「5. 強レベル」の [標準] [多い] [最多] を選択します。

標準
多い
最多
↓ 強い反応色が多く表示される。

クラッター

不要な弱いノイズを取り除き、魚群の反応を鮮明に設定にします。



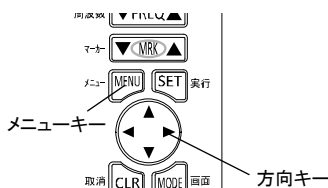
1 メニューから「5. 色設定」→「6. クラッター」を選択します。

2 「6. クラッター」の [標準] [1] [2] [3] を選択します。

標準
1
2
3
↓ 不要な弱いノイズが少なくなる。

ソナー画質

ソナーの画像処理方式を選択します。



1 メニューから「5. 色設定」→「7. ソナー画質」を選択します。

2 「7. ソナー画質」の [0] [1] を選択します。

0: 細かな魚影の表示が可能です。

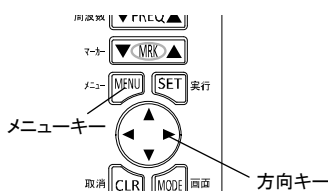
1: メリハリのある魚群表現が可能です。

※メニューの操作は『メニューの使い方』(→9 ページ)を参照してください。

魚探自動最大深度

魚探自動の最大深度を設定します。

設定値より深い深度で使用するときは、設定値を実際の深度より大きく(深く)するか、深度を手動に切り替えてください。

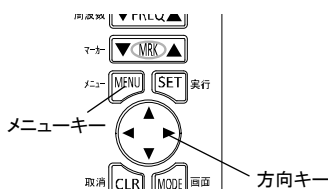


1 メニューから「6. 探知設定」→「1. 魚探自動最大深度」を選択します。

2 「1. 魚探自動最大深度」を設定します。
[30m] [50m] [100m] [150m] [200m] [300m]

クリーンエコー

ひとつ前の反射信号と今の反射信号を比較して、弱い方の反射信号を表示します。他船の魚探による混信・気泡・電氣的雑音・機械的雑音など、非同期ノイズを除去してノイズの少ないきれいな画像を表示します。



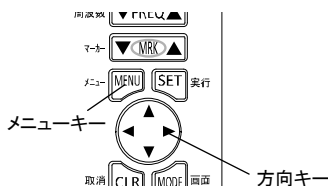
1 メニューから「6. 探知設定」→「2. クリーンエコー」を選択します。

2 「2. クリーンエコー」を設定します。
[OFF] [弱] [中] [強]

STC

浅い所の感度を抑えて、プランクトン、気泡の反射を除去した画像にする機能です。

STCの強度が強いほど浅場の感度を抑えることができます。



1 メニューから「6. 探知設定」→「3. STC」を選択します。

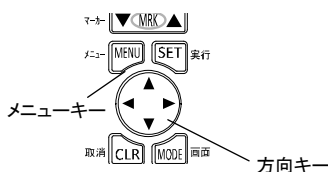
2 「3. STC」を設定します。
[0] [1] [2]

0
1 ↓ STCの強度が強くなる。
2

※メニューの操作は『メニューの使い方』(→9 ページ)を参照してください。

発振出力

発振出力を切り替えることができます。



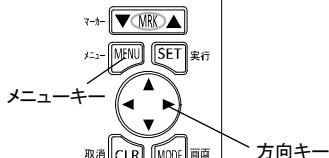
1 メニューから「6. 探知設定」→「4 発振出力」を選択します。

2 「4 発振出力」を設定します。
[無] [低] [高]

※通常の使用では“高”に設定しておきますが、他船の魚探に混信を与える恐れのある場合などには、出力を下げてください。

振動子取付方向

振動子の艀装方向を設定します。



1 メニューから「6. 探知設定」→「5 特殊設定」→「5. 振動子取付方向」を選択します。

2 「5. 振動子取付方向」を設定します。
[標準] [180 度回転]

※本機の振動子の艀装の向きに合わせて設定してください。

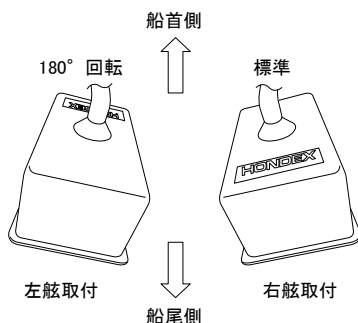
振動子の“HONDEX”ロゴがケーブルよりも船尾側にある場合は [標準] を選択してください。

振動子の“HONDEX”ロゴがケーブルよりも船首側にある場合は [180 度回転] を選択してください。

TD700-Nの取り付け

TD700-N を右舷に取り付ける場合 : “HONDEX”ロゴを船尾側にして取り付け、「5. 振動子取付方向」の [標準] を選択してください。

TD700-N を左舷に取り付ける場合 : “HONDEX”ロゴを船首側にして取り付け、「5. 振動子取付方向」の [180度回転] を選択してください。

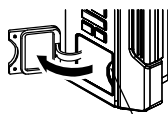


※メニューの操作は『メニューの使い方』(→9 ページ)を参照してください。

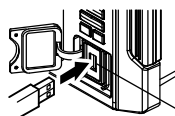
画像保存の使い方

表示されている画面をそのまま画像データとして、市販の USB メモリに保存することができます。保存されるデータは PNG 形式 (800 × 600) で保存されますので、パソコンでの確認、プリントアウト等が可能です。

- 1 本体右下のカードスロットカバーを引き出します。



窪みから手前に引き出します

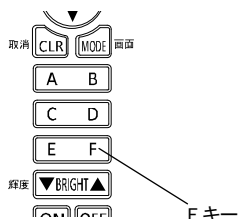


USB コネクタ

- 2 USB メモリを USB コネクタに合わせて挿入します。

- 3 保存したい画面の時に [F] キーを押します。正しく保存されれば画面中央に「画像保存中！」とメッセージが表示されます。

- 4 画面を保存した USB メモリの画像をパソコン等で読み取ることが可能になります。



注意) USB メモリの取り外しにつきましては 24 ページを参照してください。

USB メモリを取り出す

本機から USB メモリを取り外す際は、必ず下記の操作を行ってください。

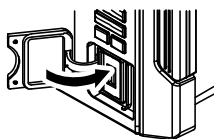
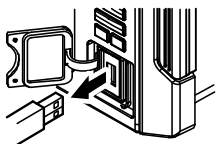
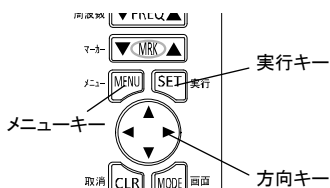
※下記の操作を行わないとデータの破損に繋がる可能性があります。

1 メニューから「7. その他」→「1 USB メモリを取り出す」を選択します。

2 [実行]キーを押して”ピッ”と音が鳴ればUSBメモリが取り出せる状態になります。

3 USBメモリを取り外します。

4 本体右下のカードスロットカバーをしっかりと取り付けます。

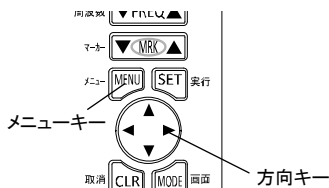


カードスロットカバーを
しっかりと付けます

※メニューの操作は『メニューの使い方』(→9 ページ)を参照してください。

本体キーの明るさ

本機の前面のキーの明るさを変更できます。

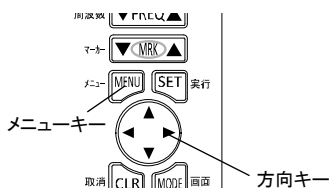


1 メニューから「7. その他」→「2 本体キーの明るさ」を選択します。

2 「2 本体キーの明るさ」を設定します。
[暗い] [明るい] [自動]

電圧補正

電圧表示が実際の電圧よりいつも一定値だけ異なる場合は、電圧の誤差を補正します。

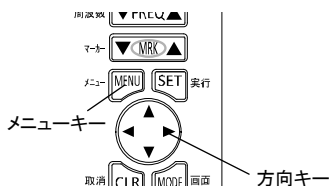


1 メニューから「7. その他」→「3 電圧補正」を選択します。

2 「3 電圧補正」を設定します。

水温補正

水温表示が実際の水温よりいつも一定値だけ異なる時は、水温の誤差を補正します。

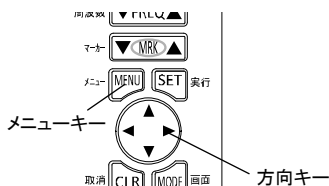


1 メニューから「7. その他」→「4. 水温補正」を選択します。

2 「4. 水温補正」を設定します。

初期化

全てを初期化し、工場出荷時の設定に戻します。



1 メニューから「7. その他」→「7. 初期化」を選択します。

2 [実行]キーで初期化します。
初期化を実行後、電源を再投入します。

※メニューの操作は『メニューの使い方』(→9 ページ)を参照してください。

メニューの一覧と設定の意味

設定の意味

※ は工場出荷時の設定

1. 周波数	(→15 ページ)	探知周波数を設定します。 140kHz, 160kHz, 180kHz, 200kHz
2. 魚探送り	(→15 ページ)	魚探送りで探知を"ON" "OFF"します。 ON, OFF
3. 自動設定	(→15 ページ)	感度と深度を自動で調整します。 手動, 自動
4. 表示設定	1. 併画内容	(→15 ページ) 魚探画面の併画内容を選択します。 広域 真下, 左舷 右舷
	2. ボトムリング	(→16 ページ) 真下の深度をリング表示します。 OFF, ON
	3. 真下ビーム表示	(→16 ページ) 真下のビームを重畳表示します。 OFF, ON
	4. ガイドライン	(→16 ページ) ビームレイアウトを表示します。 OFF, ON
	5. スケールライン	(→16 ページ) 特定の深度に線を描画します。 OFF, ON
5. 色設定	1. 昼夜切替	(→17 ページ) 画面の色合いを設定します。 昼モード, 夜モード
	2. 背景	(→17 ページ) 画面の背景色を設定します。 青, 白, 暗青, 黒
	3. 色配列	(→17 ページ) 反応の表現色を設定します。 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
	4. 色消し	(→17 ページ) 弱い反応を除去します。 OFF, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12
	5. 強レベル	(→18 ページ) 強い反応を強調します。 標準, 多い, 最多
	6. クラッター	(→18 ページ) 不要な弱いノイズを取り除き、魚群の反応を鮮明に設定にします。 標準, 1, 2, 3
	7. ソナー画質	(→18 ページ) ソナーの画像処理方式を選択します。 0, 1
6. 探知設定	1. 魚探自動最大深度	(→19 ページ) 魚探自動の最大深度を設定します。 30m, 50m, 100m, 150m, 200m, 300m
	2. クリーンエコー	(→19 ページ) 混信やノイズを抑制します。 OFF, 弱, 中, 強
	3. STC	(→19 ページ) 深度に対する感度補正值です。 0, 1, 2
	4. 発振出力	(→20 ページ) 発振出力を切り替えることができます。 無, 低, 高
	※高度な知識が必要な設定項目です。 海底判定の反射強度を調整します。	
	5. 特殊設定	1. 深度計検出レベル -20dB ~ -1dB, 0dB, 1dB ~ 12dB
		2. 深度不感帯 深度計測時の発振線除去幅です。 狭い, 標準, 広い
		3. オートゲイン補正 自動感度の効き具合を設定します。 -5 ~ -1, 0, 1 ~ 5
		4. 受信帯域幅 ノイズと分解能のバランスを調整します。 広い, 標準, 狭い, 最狭
	5. 振動子取付方向	(→20 ページ) 振動子の艀装方向を設定します。 標準, 180度回転

		6. 振動子感度調整	素子の感度を調整します。調整には高度な知識が必要です。本機の初期化で値が初期化されます。 真下、30 度、90 度、150 度、210 度、270 度、330 度、補正 (-20dB ~ -1dB, 0dB, 1dB ~ 20dB)
		7. 振動子周波数調整	素子の感度を調整します。調整には高度な知識が必要です。本機の初期化で値が初期化されます。 140kHz 補正、160kHz 補正、180kHz 補正、200kHz 補正、 (-20dB ~ -1dB, 0dB, 1dB ~ 20dB)
7. その他	1. 画面保存	(→21 ページ)	表示されている画面を画像データとして、USB メモリに保存します。
	2. USB メモリを取り出す	(→22 ページ)	取出す前に実行キーを押して下さい。
	3. 本体キーの明るさ	(→23 ページ)	本機の前面のキーの明るさを変更できます。 暗い, 明るい, 自動
	4. 電圧補正	(→23 ページ)	電圧の補正値を指定します。◀▶キーで指定 0.0V (-5.0V~+5.0V)
	5. 水温補正	(→23 ページ)	水温表示の補正値を指定します。[方向]キーの左右で指定。(水温センサーはオプション) 0.0°C (°F) (-3.0~+3.0°C (°F))
	6. 外部端子	1. 外部同期	NMEA0183 出力を設定します。 OFF, ON
		2. 外部端子 (NMEA)の bps	設定変更後、再起動してください。 4800, 9600, 38400
	7. デモ画面		魚探デモ画面の表示／非表示の設定です。 OFF, ON
	8. 初期化	(→23 ページ)	全てを初期化し、工場出荷時設定に戻します。 初期化を実行後、電源を再投入します。

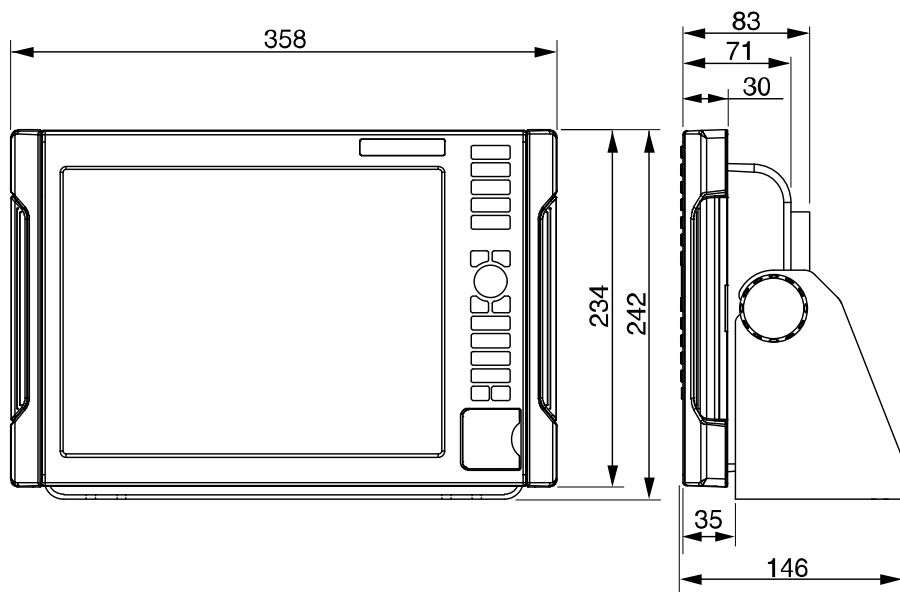
参考資料

本体寸法図	27
本体接続図	28
本体の取付け方法	29
インダッシュで取付ける方法	30
振動子の取付け方法	32
トランサム(船尾)に取付け	34
水温センサーの取付け方法	35
標準構成品	36
オプション部品	37
故障とお思いになる前に	38
仕様一覧表	40
アフターサービスについて	41

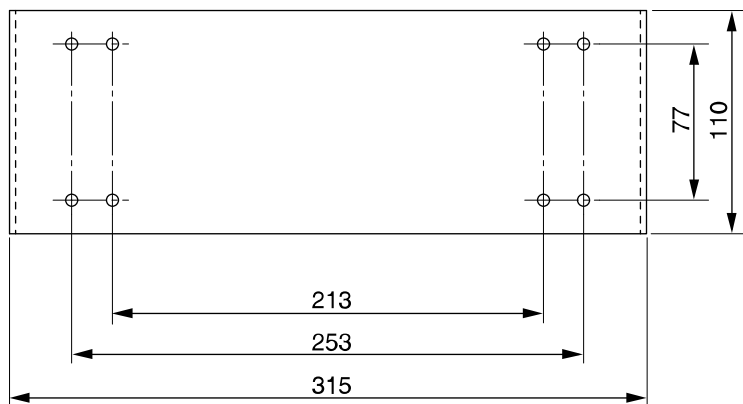
本体寸法図

＜本体寸法図＞

単位:mm

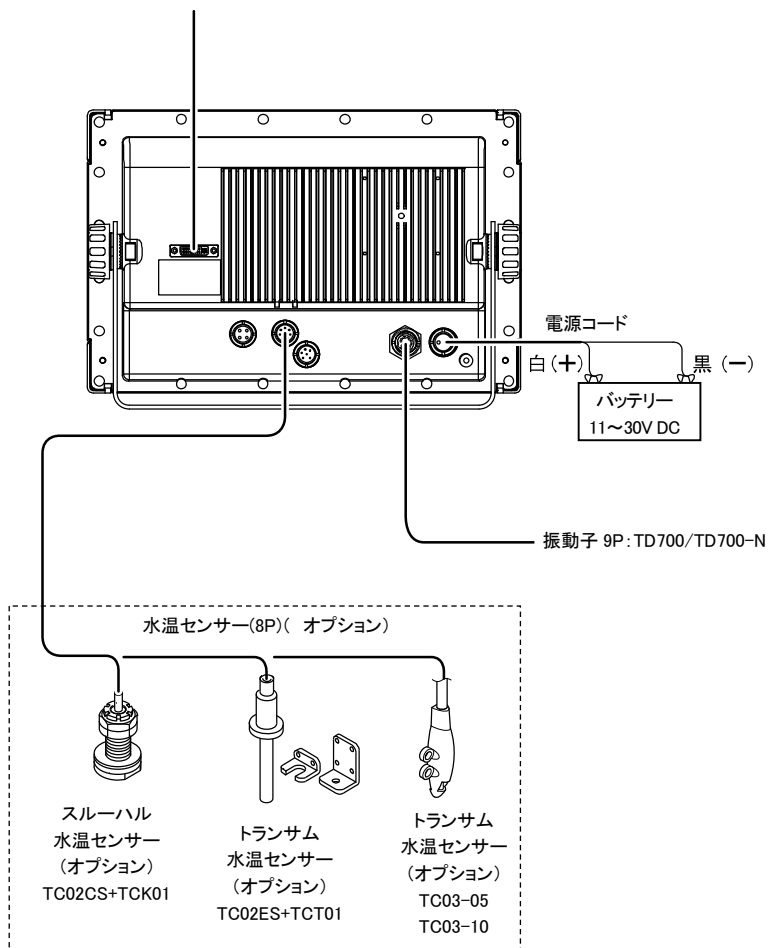


＜架台取付け穴寸法図＞



本体接続図

DVI 映像出力コネクタ (HONDEX 専用モニターは非対応)



本体の取付け方法

⚠ 警告

- 簡易的な取付けはしない。
ケガなど事故の原因となります。
※下記の取付手順に従い、必ず正規の取付けを行ってください。

⚠ 注意

- 雨や水しぶきが直接かかる場所へ設置しない。
特に本体背面 DVI コネクタ部につきましては、防水構造となっておりませんので、未使用時には蓋を外さない。
故障の原因となります。

【本体取付けの手順】

＜本体の取付け＞

本体の取付用架台の穴(4ヶ所)を使い、付属のネジで取付けます。
図を参照しながら本体を取付けます。

1. ＜位置決め＞

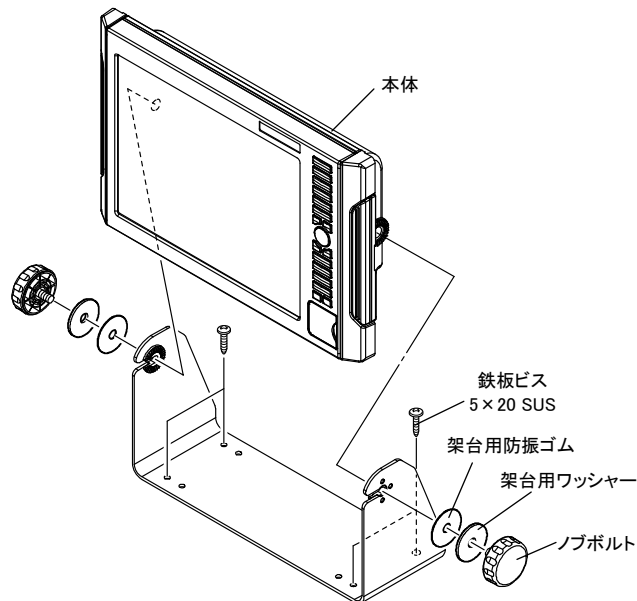
本体に架台を付けた状態で取付け位置を決め、目印をつけます。
※本体の後方はコード類を接続できるだけの隙間を空けてください。

2. ＜架台の取付け＞

架台の外側の穴(4ヶ所)を使い、付属のネジで取付けます。
※架台両端の切り欠きは、本体の表側へ向けてください。

3. ＜本体の取付け＞

図を参照しながら本体を取付けます。



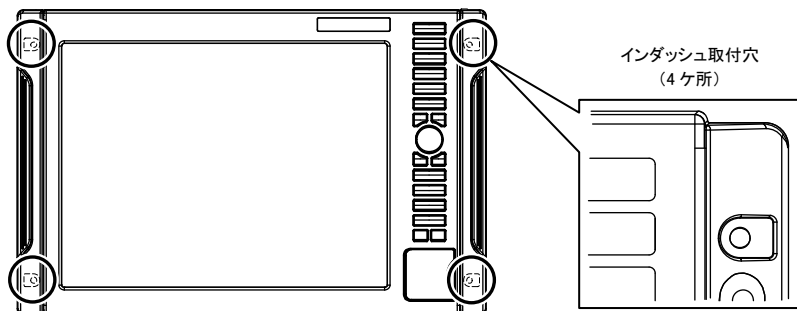
インダッシュで取付ける方法

警告

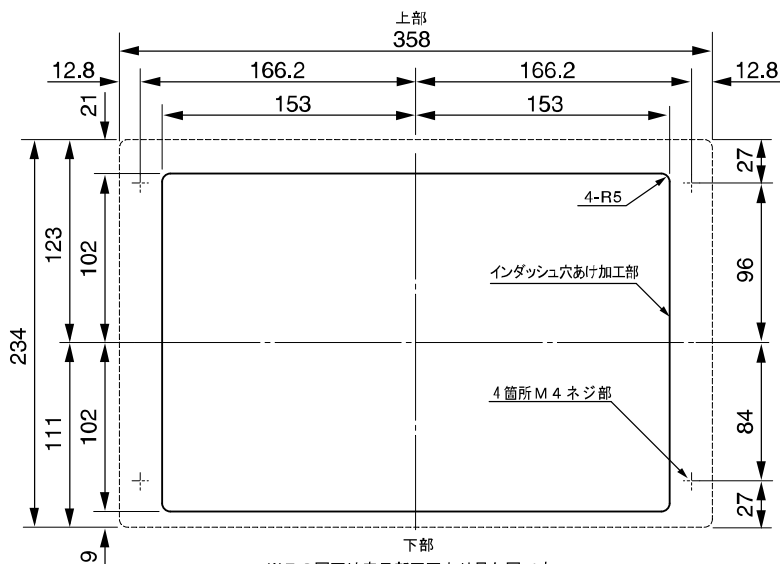
- 簡易的な取付けはしない。
ケガなど事故の原因となります。
※下記の取付手順に従い、必ず正規の取付けを行ってください。

【インダッシュで取付けの手順】

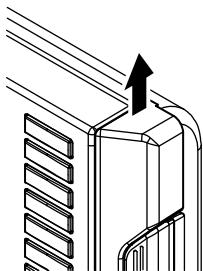
本体前面の四隅にある取付穴を利用して、パネルにネジ止めできます。



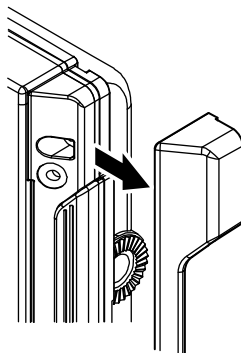
1. 付属の原寸大インダッシュ用型紙を参考に穴を開けてください。



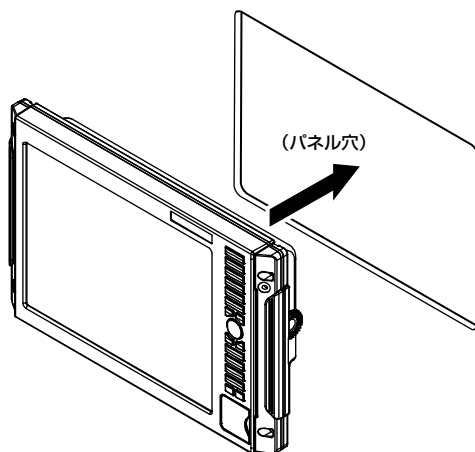
2. 本体側面のオーバーカバー（インダッシュカバー）（2ヶ所）を上押し上げます。



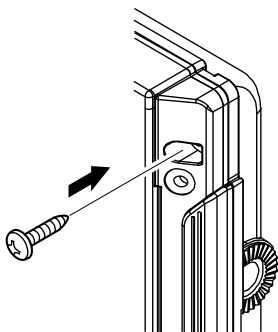
3. そのまま画面外側方向に引きます。オーバーカバーが外れます。



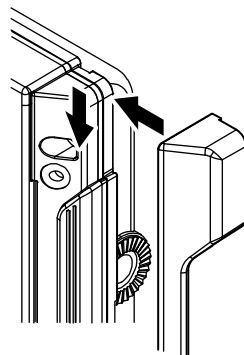
4. 本体をパネルに開けた穴にはめます。



5. 4×30 タッピングネジを挿入してパネルに固定します。（4ヶ所）



6. 再び、オーバーカバー（2ヶ所）を被せます。



振動子の取付け方法

⚠ 危険

- 海上での作業は非常に不安定で危険。
振動子の取付け・保守は、陸上で船体を固定、または岸壁、マリーナで停泊中に行ってください。
これを守らないと死や身体に重大な損傷を招く恐れがあります。

⚠ 警告

- 船底貫通(スルーハル)取付けは、防水処理を充分に行う。
不充分だと、浸水して海難事故の原因となります。
- 電動工具による作業は、濡れた手で行わない。
感電の原因となります。

【取付け方法について】

船底の傾斜が 5° 以下の場合には TD700

船底の傾斜が $6 \sim 15^{\circ}$ の場合は TD700-N

を取り付けてください。

次のような取付け方法があります。

1. 船底貫通取付け

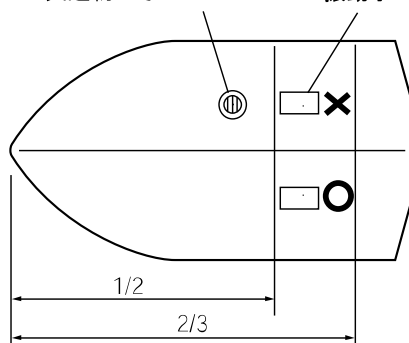
2. トランサム(船尾)に取付け

※アルミ船は電食の恐れがあるため、取付厳禁。

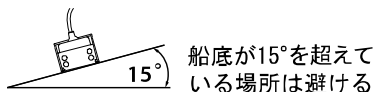
※上記の取付けの場合は、特に次の点に注意してください。

振動子の前方に
スカッパやドレンなど
突起物がないこと

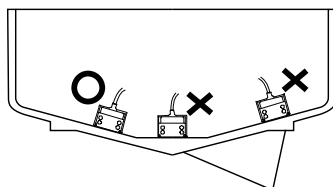
振動子



船首から $1/2 \sim 2/3$ の位置



船底が 15° を超えている場所は避ける



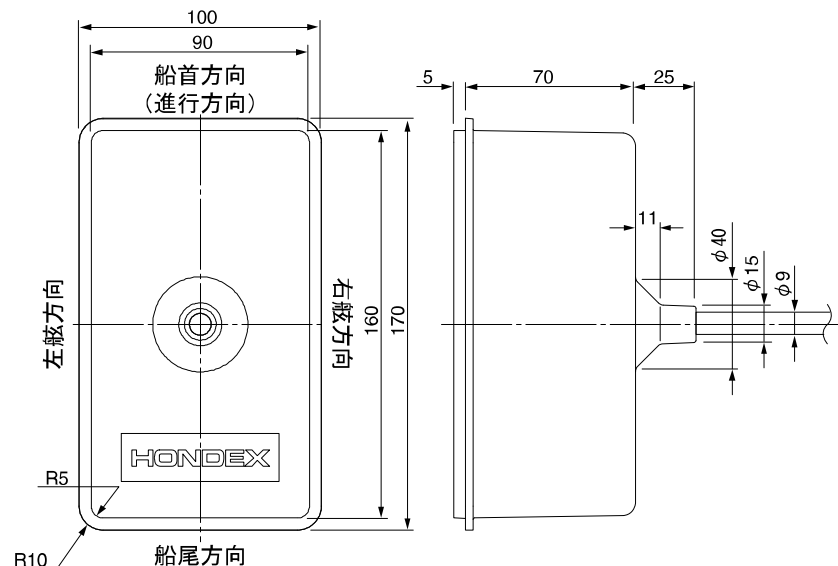
キール部・ストライプ部は避ける

【振動子の方向について】

本機の振動子は専用振動子の為、向きがあります。

振動子取り付け時には下記の向きにあわせて、取り付けてください。

尚、取り付けは販売店に依頼してください。



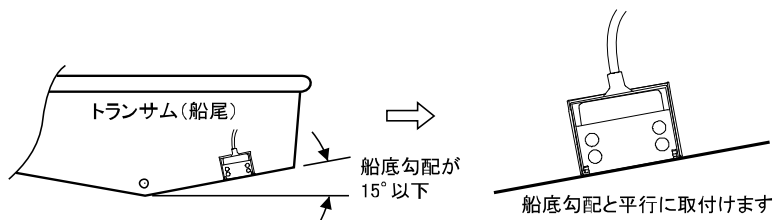
振動子表面に”HONDEX”ロゴがある方が後方です。船尾方向が”HONDEX”ロゴになるように取り付けてください。

本振動子は、発振面より 360 度のエリアを探知しますので、障害物がないような場所に取り付けてください。

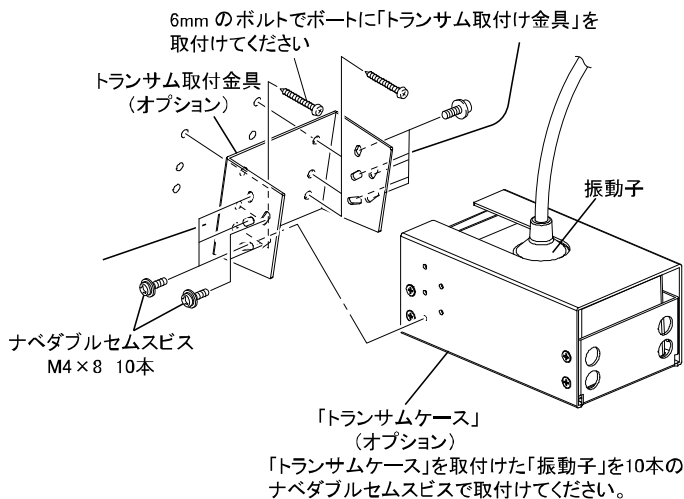
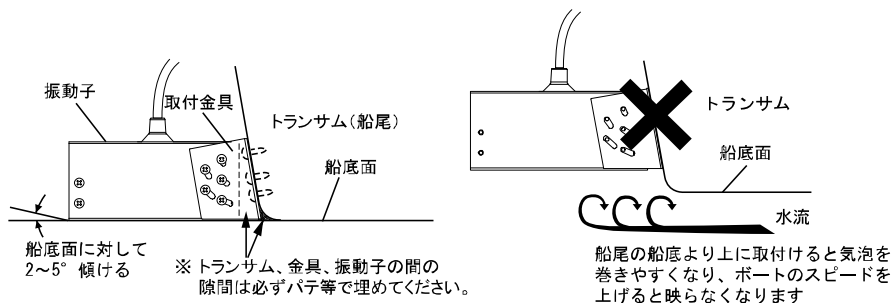
尚、水平な船底(傾き 5° 以下)の場合は TD700 を、角度のついた船底(傾き 6～15°)の場合は TD700-N を取り付けてください。

TD700-N を取り付けの際、左舷取付と右舷取付によって振動子の方向と設定の変更が必要です。詳しくは『振動子取付方向』(→20 ページ)を参照してください。

トランサム(船尾)に取付け(オプション)



※船底勾配が 5° 以下の場合は TD700、 $6 \sim 15^{\circ}$ の場合は TD700-N を取り付けてください。
船底勾配が 15° 超える場所は避けてください。



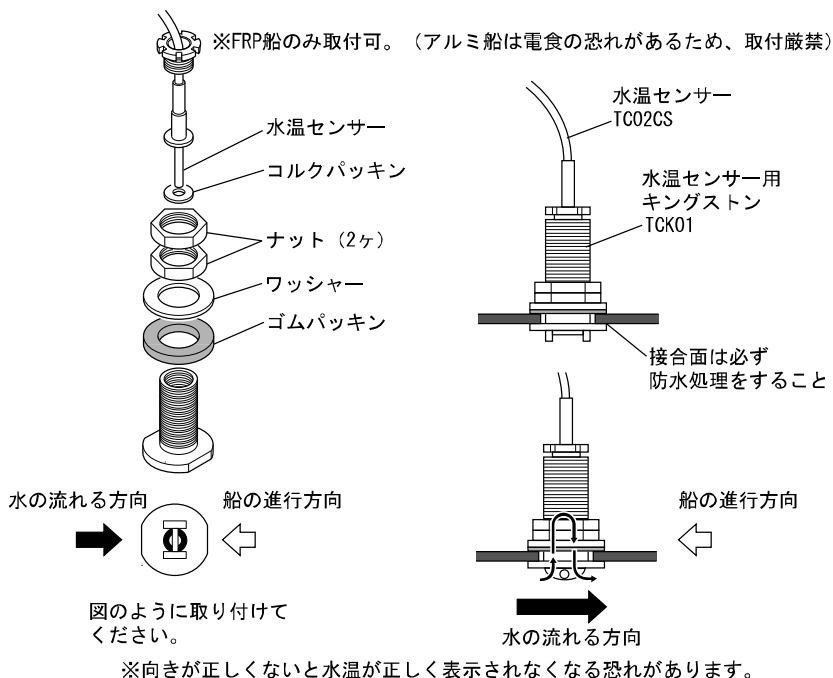
水温センサーの取付け方法

※水温センサーはオプションです。

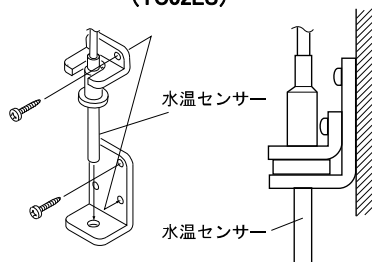
危険

- 海上での作業は非常に不安定で危険。
水温センサーの取付け・保守は、陸上で船体を固定、または岸壁やマリーナで停泊中に行ってください。
これを守らないと死や身体に重大な損傷を招く恐れがあります。
- 電動工具による作業は、濡れた手で行わない。
感電の原因となります。

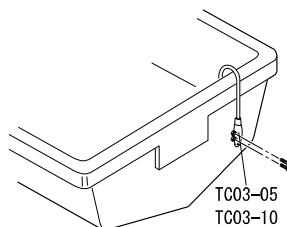
【スルーハル水温センサー(TC02CS)の取付け】



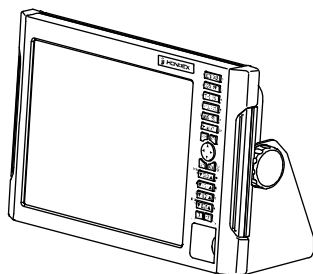
【トランサム水温センサーの取付け】 (TC02ES)



【トランサム水温センサーの取付け】 (TC03-05、TC03-10)



本体 12.1 型



架台×1 ケ
 ノブボルト×2 ケ
 架台用ワッシャー×2 ケ
 架台用防振ゴム×2 ケ

本体 架台取付用ネジ

鉄板ビス
 5×20 SUS×4 本

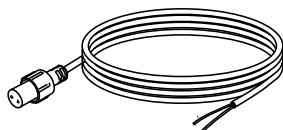


インダッシュ用 ナベタッピンネジ

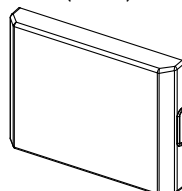
4×30 SUS×4 本



電源コード (DC07) 2P 2m

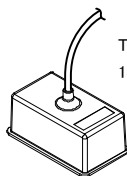


ハードカバー (CV08)

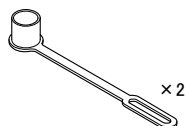


振動子

TD700/TD700-N (9P 15m)
 140kHz, 160kHz, 180kHz, 200kHz
 ※2kW 相当

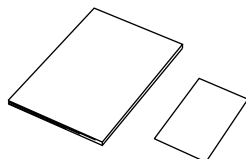


ケーブルキャップ(GC01)

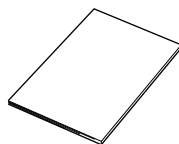


×2

取扱説明書(保証書)

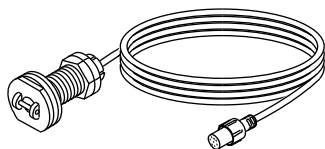


原寸大インダッシュ用 型紙



オプション部品

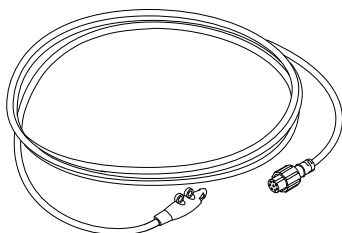
スルーハル水温センサー
(TC02CS+TCK01) (8P 15m)



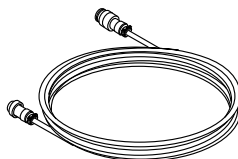
トランサム水温センサー
(TC02ES+TCT01) (8P 15m)



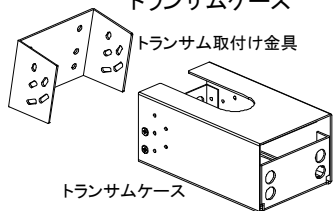
トランサム水温センサー
(TC03-05) (8P 5m)
(TC03-10) (8P 10m)



水温センサー延長コード(EK11)
(8P-8P 3m)



トランサム取付け金具
トランサムケース



トランサムケース

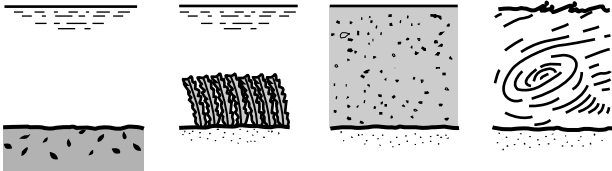
ナベダブルセムスビス M4×8 14 ケ

サラネジ 4 ケ

故障とお思いになる前に

●万一、本機の調子が悪いとき、修理を依頼される前にもう一度次の点をお確かめください。

症 状	原 因	対 策
電源が入らない。	バッテリーの電源が規定値(11V)より低い。	バッテリーを充電する。
	電源コネクタが接触不良になっている。	接続を確実に行う。錆、汚れなどは清掃して取り除く。腐蝕している場合は交換する。 ・電源コード交換 ・本体側コネクタ交換(修理依頼)
	電源の極性が＋－逆になっている。	極性を確認して正しく接続する。
	電源コード内部が断線している。	新品の電源コードと交換する。
	ヒューズが切れている。	修理を依頼する。
画面に何も表示しない。	輝度が最低になっている。	輝度を調整する。(「輝度調整するには」14 ページを参照)
海底も魚群も全く表示されない。	振動子コネクタが接触不良になっている。	接続を確実に行う。錆、汚れなどは清掃して取り除く。腐蝕している場合は交換する。 ・本体側コネクタ交換(修理依頼)
	<振動子本体の故障> 次の方法で確認し、異常であれば交換する。 1. 振動子の発振面からポツポツという音が聞こえれば正常。 2. 感度と深度を最大にして振動子の発振面を手でこすったとき画面に雨が降ったような点が表示されれば正常。	
	振動子が水面下に充分浸かっていない。	常時、振動子が水面下に浸かるような位置に取付ける。
記録がときどき映らなくなる。	振動子が水面下に充分浸かっていない。	常時、振動子が水面下に浸かるような位置に取付ける。
	振動子の取付けが悪いと、高速走行時に気泡を巻きやすくなり、映らなくなる。	振動子の取付けを確認する。
	他船の航跡を横切った時の気泡の影響。	自船の場所を移動するか、気泡が消えるまで待つ。
海底や魚群があまり良く映らない。	感度の下げすぎ。	感度を上げてみる。 または、オートゲイン(自動感度調整)を設定してみる。

症 状	原 因	対 策
海底や魚群があまり良く映らない。	振動子の発振面にゴミ、藻、カキ、フジツボ等が付いている。	付着物をきれいに取り除く。
	水底の状態や水の濁りによって、感度が悪くなったような記録になることがありますが、故障ではありません。 	
	ヘドロや腐葉土などが多い場所 藻が非常に多い場所 泥や汚れが非常に多い場所 急流で水が渦まいている場所	“色消し”で、強い反応の色まで消している。
画面にノイズが多い。	感度の上げすぎ。	感度を下げしてみる。 または、オートゲイン（自動感度調節）を設定してみる。
	他船の魚探との混信。	他船との距離が適当に離れれば消えます。
	エンジンからの雑音。	電源コード・振動子コード等の配線の引き回しを変えてみる。 （できるだけエンジンから遠ざける）

仕様一覧表

表示部		HE-1270
	表 示 器	12.1 型 TFT カラー液晶
	表 示 方 向	横
	表 示 ド ッ ト	800 × 600
	電 源 電 圧	DC11V～30V
	本 体 寸 法 (mm)	242(H) × 358(W) × 146(D)
	本 体 質 量	約 3.6 kg
魚群探知機部	周 波 数	140, 160, 180, 200 (kHz)
	出 力	2kW 相当
	表 示 範 囲	0～300m(測深能力を意味しておりません)
	魚 探 自 動	OFF/ON
	送 り	OFF/ON
	背 景 色	4 色(黒色・青色・白色・暗青色)
	色 配 列	8 種類
	測 深 単 位	m
	ス ケ ー ル ラ イ ン	OFF/ON
	S T C	0/1/2
オプション		
	水 温 セ ン サ ー	スルーハルタイプ : TC02CS+TCK01 トランサムタイプ : TC02ES+TCT01 トランサムタイプ : TC03-05, TC03-10

アフターサービスについて

本製品は販売同意書に同意いただいた販売店にて現地・現場での対応をお願いしております。

製品が故障した場合は、製品に保証書を添えてお買い上げ販売店、製品取扱店、または、下記カスタマーサービスへお問い合わせください。
なお、保証・使い方などご不明な点につきましては、下記マリンカスタマーサービスをご利用ください。

■無償修理について

下記の項目全てが記入された保証書が添付されている場合に限り、お買い上げ日から 1 年間は保証書に記載されている内容の範囲内で無償修理致します。

- 型名
- 製造番号
- お買い上げ日
- 販売店名

※詳しくは、保証書に記載されている＜保証規定＞をご覧ください。

マリンカスタマーサービスへのお問い合わせ

下記マリンカスタマーサービスの受付時間は、平日 9:00～17:15（12:00～12:50 を除く）です。土、日、祝日は休ませていただきます。



本物電子株式会社®

お客様相談窓口／修理品の依頼・発送

マリンカスタマーサービス

TEL: 0532-41-6332

FAX: 0532-41-2996

〒441-3193

愛知県豊橋市大岩町小山塚20



2025年3月 第1版発行

—— 私たちは良い魚探をつくります ——



本町電子株式会社®

お客様相談窓口／修理品の依頼・発送

マリンカスタマーサービス

TEL: 0532-41-6332

FAX: 0532-41-2996

〒441-3193

愛知県豊橋市大岩町小山塚20